

全体傾向と課題

各項目別の分析（各評価の割合は小数点以下四捨五入で処理をしているため、合計が99%にならないものがありますご了承下さい。）

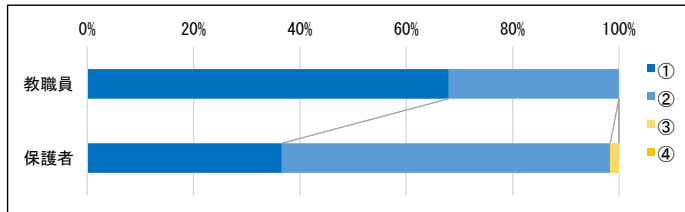
①
あては
まる

②
概ねあ
てはま
る

③
あまり
あては
まらない

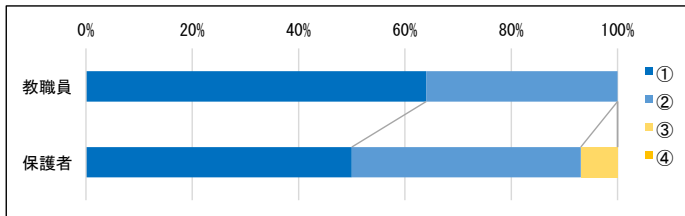
④
あてはま
らない

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
1	教職員	学校は学校教育目標達成のために努力している。	3.68	3.58	3.50	68%	32%	0%	0%
	保護者	学校は、学校教育目標達成のために努力している。	3.35	3.38	3.40	37%	62%	2%	0%



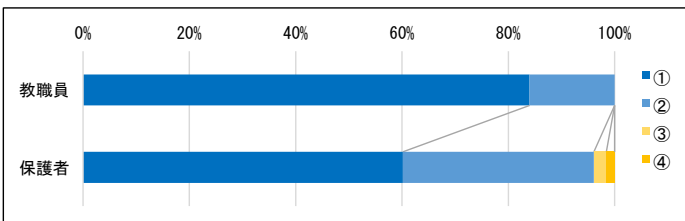
学校教育目標「活力のある学校」の達成努力への学校の取り組みに対し、保護者の平均評価は多くの肯定的な回答（99%）をいただくことができ、一定の成果が見られた。今年度は、保護者会全体会を開催したことで、学校の取り組みを周知することができたことも大きな要因と考える。教職員の平均評価は0.1ポイント増え、教職員が学校教育目標を理解し、目標達成のために取り組んでいることが現れたものであると考える。しかし、保護者の評価は概ね肯定的な回答であるものの、教職員との平均評価には0.3ポイント以上の差があることについては、改善の余地がある。学校教育目標の周知や、取り組みに対し具体的に保護者に伝わるよう、更に工夫・改善をしながら進めていく必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
2	教職員	学校は、教育内容や子どもたちの様子を積極的に保護者・地域に知らせている。（HPや学校だより等）	3.64	3.64	3.54	64%	36%	0%	0%
	保護者	学校は、日頃の子どもの様子や教育活動を保護者・地域に積極的に知らせている。（HPや学校だより等）	3.43	3.39	3.21	50%	43%	7%	0%



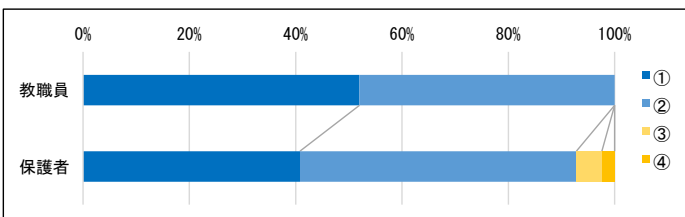
学習参観や、学年単位で実施した特別授業等にも保護者に周知し、参観できるようにしたことで、教育内容や学習の様子を知ってもらう機会が増えたことが、評価のポイントになったと考える。学校での児童の様子等、ホームページで知らせるとともに、地域に学校だよりを回覧し、より広く学校の様子を知ってもらうための広報活動を行ってきた。この3年間は、毎年大きくポイントを上げており、一定の成果が見られた。また、今年度は、ミシンの学習や、畑の作業など、多くの機会にPTAの方や地域ボランティアの方に支援していただいたことも、大きな要因の一つと考える。今後も、さまざまな方法で、教育活動を家庭や地域に発信していく必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
3	教職員	学校の職員は来校者や保護者に対して親切に対応している。	3.84	3.77	3.76	84%	16%	0%	0%
	保護者	学校の職員は、来校者や保護者に対し丁寧に対応している。	3.55	3.64	3.57	60%	36%	2%	2%



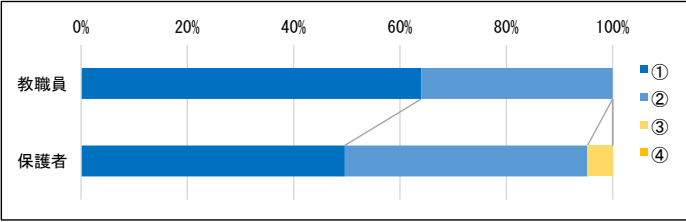
教職員の平均評価は0.07ポイント増加している。職員全体が来校される方に対して丁寧に対応するよう心がけた結果であると考えられる。保護者の回答についても、概ね肯定的な評価をいただいている一方で、教職員との平均評価の差異が生じていることについては、改善していかなければならない課題である。教職員の挨拶や返答、電話対応等、常に見直ししながら、保護者や来校者に対し、誠意をもって丁寧な対応を心がけていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
4	教職員	学校の教職員は熱心で分かりやすい授業に努めている。	3.52	3.32	3.46	52%	48%	0%	0%
	保護者	学校の教職員は、分かりやすく楽しい授業に努めている。	3.31	3.25	3.32	41%	52%	5%	2%



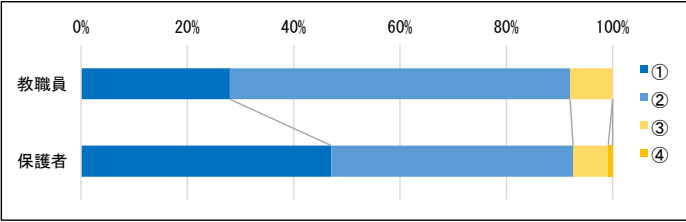
分かりやすい授業に関して、平均評価は、保護者も教職員も増加した。特に、教職員に関しては、0.2ポイント増加し、一定の成果が見られた。9月の新PCの導入により、活用しやすくなったことも大きな要因の一つであると考えられる。また、効果的なPCの活用方法や実践のための情報共有など、教職員の研修も大きな成果であろう。しかし、教職員の評価に比べ、保護者の評価は肯定的な評価（93%）と概ね良好ではあるものの、③④の意見も7%と、少なくない。子供たちや教職員の取り組みの周知や、校内研修の充実等、工夫をしながら、さらに楽しくわかりやすい授業づくりに努める必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
5	教職員	学校は体験的な学習（校外学習、キャリア教育、体験活動等）を通じて自然や人々と触れ合う機会を積極的に設けている。	3.64	3.54	3.43	64%	36%	0%	0%
	保護者	学校は、体験的な学習（校外学習、キャリア教育、体験教室等含む）を通じて自然や人々と触れ合う機会を積極的に設けている。	3.45	3.48	3.33	50%	46%	5%	0%
	児童	体験活動（野菜の皮むき、スポーツ教室、昔遊び、校外学習、キャリア教育、など）では積極的に取り組んだ。	3.63	3.58	0.00	70%	24%	5%	1%



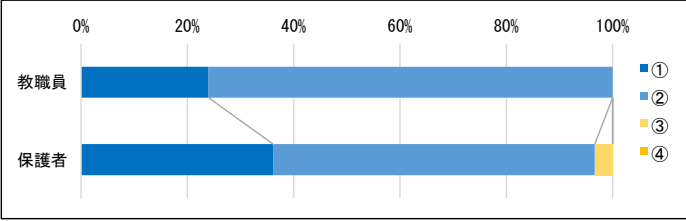
平均評価は、概ね肯定的な回答であった。特に、教職員、児童の回答は、昨年度よりポイントが増加している。特に、①のポイントは、教職員が10%、児童は8%増加しており、一定の成果が見られた。今年度もPTAや社会福祉協議会等にご協力いただき、昔遊びや農業体験等、体験活動を多く実施したことで、その成果が表れ、実感を伴った学びにつながっているものと考えます。今後も保護者や地域の皆様のご協力いただきながら、体験的な学習のよさを生かした学習を実践し、児童の「生きる力」の育成に努めたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
6	教職員	学校は清掃活動に力を入れて取り組んでいる。	3.20	3.39	3.45	28%	64%	8%	0%
	保護者	学校は、清掃活動に力を入れて取り組んでいる。	3.39	3.31	3.38	47%	45%	7%	1%



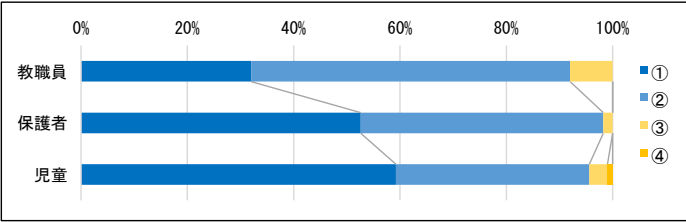
保護者の平均評価は増加、教職員は、0.2ポイント近く下がっているが、概ね肯定的な意見であった。教職員が清掃指導の意識を持って取り組んだ結果であると考えますが、昨年度と比較すると、教職員自身の評価が15%下がっており、今後の課題である。しかし、現状を考えると、少ない人数で、広い校舎敷地及び校庭等屋外の敷地を十分に清掃することは難しい状況であり、清掃の方法を工夫する必要がある。環境整備もきめ、学校をきれいにすることや、物を大切に使う児童の姿を育てていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
7	教職員	学校は、防災・安全指導を積極的に取り組んでいる。	3.24	3.23	3.18	24%	76%	0%	0%
	保護者	学校は、防災・安全指導に積極的に取り組んでいる。	3.33	3.36	3.30	36%	61%	3%	0%
	児童	地震や火事などに備えて、学校の避難訓練に真剣に取り組んでいる。	3.78	3.72	0.00	80%	18%	1%	0%



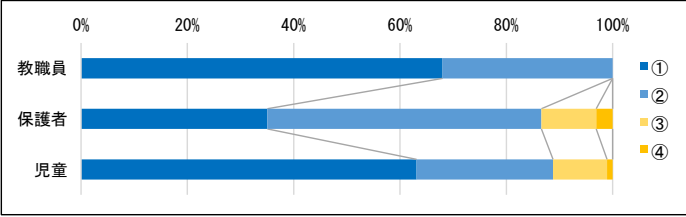
平均評価は、保護者は0.03ポイント昨年度より下がっているものの、教職員・児童の評価は上がっており、取り組みへの成果が見られる結果であった。近年起きている大きな地震の影響もあり、全体的に自然災害への危機管理意識が向上している。本校は、今年度土砂災害危険地域に指定されたこともあり、防災研修の実施は喫緊の課題である。消防署や地域の皆様のご協力もいただきながら、防災教育を今一度しっかり行っていくとともに、安全指導員の方々の協力も得て登下校指導、交通安全や不審者対策等の安全教育を行い、児童をけがや事故から守れるように努めていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
8	教職員	学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に積極的に取り組んでいる。	3.24	3.38	3.45	32%	60%	8%	0%
	保護者	学校は、生徒指導（挨拶・返事・くつの整理等）に積極的に取り組んでいる。	3.51	3.37	3.44	53%	46%	2%	0%
	児童	掃除・あいさつ・返事・くつの整理整とんをがんばっている。	3.54	3.49	3.31	59%	36%	3%	1%



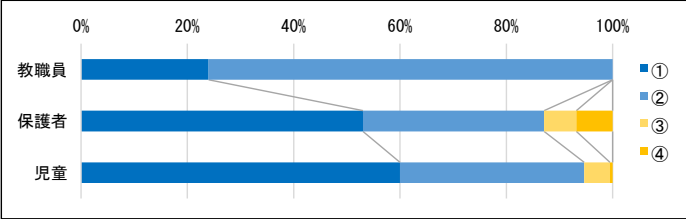
平均評価は、保護者・児童共に昨年度よりポイントが増加しており、年々上昇傾向である。一方で、教職員の平均評価は昨年度より下がっており、①については10%減少している。児童自身は、「進んでできる挨拶・返事」という意識が高くなってきていることが考えられる。点から評価が上がったと考えられる。しかし、教職員の評価からは、東小の合言葉である「がんがんあいさつ」の達成には、やや課題が残っているのではないかと考える。折に触れ、あいさつをすることの大切さを伝え、基本的な生活態度を身につけられるようにする。そのためには、指導する側の教職員の意識の向上も必要だと考える。学校全体の意識を向上させ、実践できる子を育てていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
9	教職員	学校はいじめ等、生徒指導上の様々な問題に対し、児童に必要な支援を行っている。	3.68	3.59	3.64	68%	32%	0%	0%
	保護者	学校は、いじめ等生徒指導上の様々な問題に対し、児童へ必要な支援を行っている。	3.19	3.09	3.24	35%	52%	10%	3%
	児童	嫌なことされたり、困ったときに先生は相談にのり、いっしょに考えてくれる。	3.51	3.47	3.28	63%	26%	10%	1%



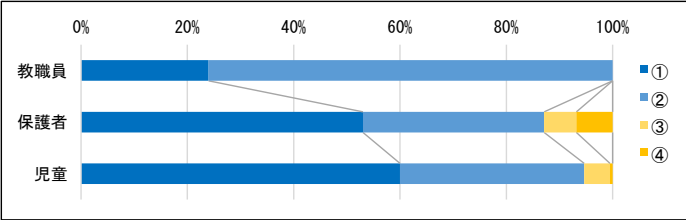
今年度も、いじめアンケートや学校生活アンケートをもとに、気になる児童に関しては個人面談を行った。また、3年生以上の全児童を対象にQ-U検査を実施し、いじめや悩みを抱える児童の早期発見と早期解決に努めた。平均評価では、全ての対象者において平均評価の上昇が見られた。昨年の課題であった保護者の評価は、③④の肯定的でない意見が合わせて21%から13%に減少したことは、保護者の皆様と連携を図り、生徒指導上の様々な問題に対し、早期対応できるようになってきた成果であるとする。今後も、児童一人一人を大切に、真摯に向き合い対応していくことでより一層の信頼関係を築いていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
10	教職員	湖北台中学校区では、小学校と中学校が連携し、小中一貫教育の充実に努めている。	3.54	3.15	3.08	54%	46%	0%	0%
	保護者	湖北台中学校区では、小学校と中学校が連携し、小中一貫教育の充実に努めている。	3.32	3.13	2.97	41%	50%	8%	1%



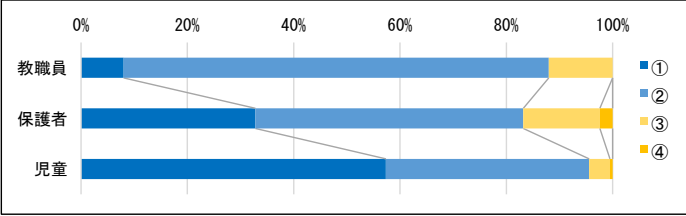
小中一貫教育の充実にに関して、評価は年々上昇傾向であり、昨年課題であった保護者の③④肯定的でない回答の項目が半減したことは成果であると考え。湖北台中学校の地域貢献活動で、小学校の観察池清掃や窓ふき等の活動を、広く保護者や地域の方に広報したり、中学校区で3校共同の「教育ミニ集会」等、台中区の共同の取り組みを図ってきたことが要因の一つになっていると認められる。今後も、3校の学校運営協議会の連携を深め、小中一貫教育としてどのような取り組みを行い、どのような成果があったかを保護者や地域に発信する必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
11	教職員	児童は毎日学校に楽しく登校している。	3.24	3.17	3.25	24%	76%	0%	0%
	保護者	お子さんは、毎日楽しく学校に登校している。	3.33	3.29	3.21	53%	34%	6%	7%
	児童	毎日学校に楽しく登校している。	3.54	3.51	3.39	60%	35%	5%	0%



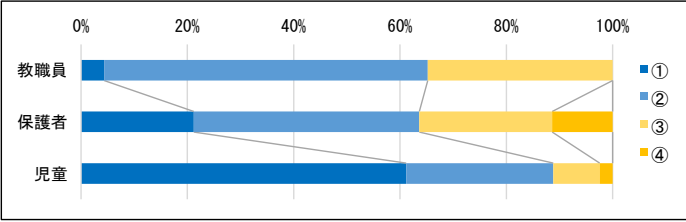
児童の「学校は楽しいですか」の問いに対し、評価が昨年度より0.03ポイント、保護者は0.04ポイント、教職員は0.07ポイント上昇しており、大きな成果であると言える。しかし、児童の評価④（あてはまらない）は0%となったものの、③（あまりあてはまらない）については5%の児童が「楽しい」といえない状況であると回答している重く受け止めなければならない。行事の仕方や内容、学習における指導方法や取り組み方を振り返り、改善していくひつようがある。「よくわかる授業」「居心地のよい学校」「児童が主体となって取り組める学校行事」等の充実を目指し、どの児童にとっても「楽しいを実感できる学校づくり」を推進していきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
12	教職員	児童は熱心に授業に取り組み、学習した内容について理解している。	2.96	3.14	3.23	8%	80%	12%	0%
	保護者	お子さんは、熱心に学習（授業）に取り組んでいる。	3.14	3.01	3.06	33%	50%	14%	2%
	児童	熱心に授業に取り組み、学習した内容を理解することができている。	3.52	3.46	3.21	57%	38%	4%	0%



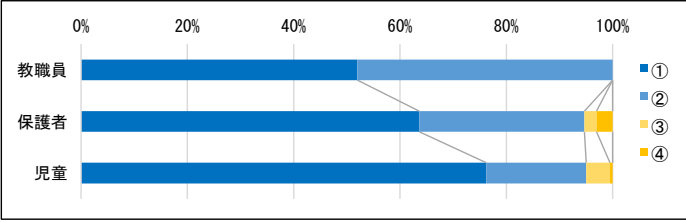
教職員の評価は①（あてはまる）が昨年度比-6ポイント、②（概ねあてはまる）が-6ポイントに対し、③（あまりあてはまらない）が12ポイント増加しており、児童が熱心に授業に取り組むことに対して大きな課題が見える結果となった。保護者の評価も上昇しているとはいえ、③④の回答が16ポイントであり、大きな課題だと言えるだろう。一方で、児童の平均評価は①②合わせて92%と肯定的な評価であり、軌道が生じている。児童自身は、学習を通して自己肯定感を育てている一方で、「わかる授業」「学習の積み重ね」等、学校全体の課題として取り組んでいく必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
13	教職員	児童は宿題や自主学習等の家庭学習に熱心に取り組んでいる。	2.70	3.05	2.88	4%	61%	35%	0%
	保護者	お子さんは、家で宿題や自主学習を積極的に行っている。	2.73	2.78	2.71	21%	42%	25%	11%
	児童	宿題や自主学習など家庭学習をがんばっている。	3.48	3.46	3.13	61%	28%	9%	2%



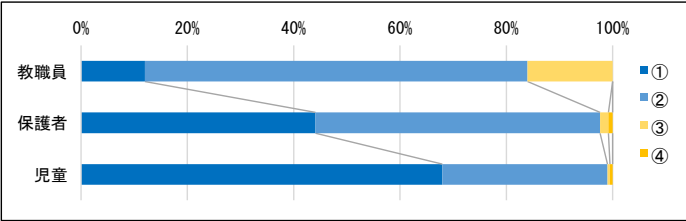
この質問項目は、以前から課題ではあったが、今回の結果の中で一番の課題であると言える。特に、教職員の①②（肯定的な回答）を合わせても65%、③（あまりあてはまらない）においては、35%となっている。保護者の回答において③「あまりあてはまらない」④「あてはまらない」という回答が合わせて昨年度と比べ10%増加しており、早急に改善していかなければならない課題と言える。学校も家庭との連携を図り取り組んでいかなければならず、宿題以外の自主学習について学習時間の目安を示したり、学習内容の指導を行ったりして家庭学習の定着を図りたい。また、今年度開始した「放課後お助け隊」との連携も強化していく必要がある。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
14	教職員	児童は学校行事（運動会・メロディーフェスティバル・校外学習等）に楽しく積極的に参加し活動している。	3.52	3.58	3.67	52%	48%	0%	0%
	保護者	お子さんは、学校行事（運動会・校外学習・メロディーフェスティバル等）に楽しく参加し積極的に活動している。	3.55	3.58	3.56	64%	31%	2%	3%
	児童	運動会やメロディーフェスティバルなど、学校行事に楽しく参加し活動している。	3.71	3.72	3.60	76%	19%	4%	0%



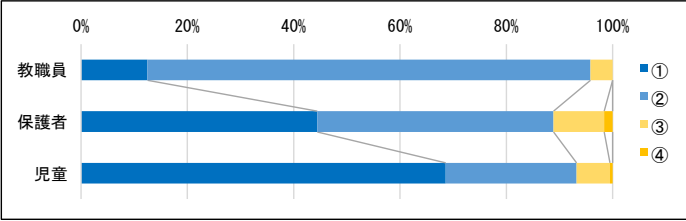
教職員・保護者・児童共に、①②（肯定的な回答）の合計は95%を超えており、多くの児童は学校行事に楽しく参加しているという回答を得た。行事ごとに児童が実行委員やその他の役割を果たして頑張った成果だと言える。一方で、①（あてはまる）のポイントは昨年度から5ポイントほど低下しており、工夫していく必要がある。保護者が学校行事等、参観していただく機会を積極的に取り入れると共に、来年度も行事の内容や練習を工夫・改善し、児童一人一人が輝ける行事になるように努めたいと考えている。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
15	教職員	児童は社会や学校のルールを守って生活している。	2.96	3.22	3.37	12%	72%	16%	0%
	保護者	お子さんは、社会や学校のルールを守って生活している。	3.41	3.39	3.42	44%	54%	2%	1%
	児童	社会（交通ルールなど）や学校のルールを守って生活している。	3.67	3.65	3.48	68%	31%	0%	0%



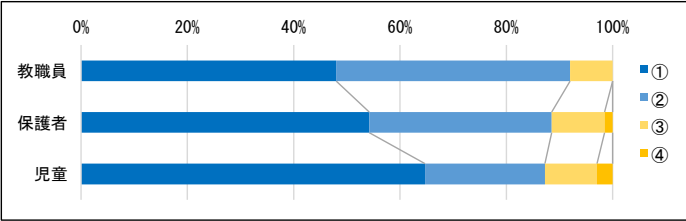
今年度は、教職員の平均評価が0.26ポイント下がり、保護者・児童の平均評価は若干上昇している。教職員の評価が年々下がっていることを見ても、子どもたちのマナー面の育成の継続はしていかなければならない課題と言える。児童・保護者と教職員のポイントは、差異が生じており、学校と家庭でのルールのとらえ方に違いがあると思われる。一方で、児童の多くは基本的なルールやきまりを守って生活しようとする意識の高さが評価として表れている。今後も、東小の「がっこうのきまり」や、日常生活指導や安全指導、保健指導等の充実をはかり、保護者の方へ周知すると共に、社会や学校のルールを守ることの大切さとその必要性をしっかりと指導していきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
16	教職員	児童は学級や学校で好ましい友達関係を築いている。	3.08	3.32	3.25	13%	83%	4%	0%
	保護者	お子さんは、学級や学校で好ましい友達関係を築いている。	3.32	3.31	3.29	44%	44%	10%	2%
	児童	学校や学級で友だちとなかよくしている。	3.61	3.72	3.64	69%	25%	6%	0%



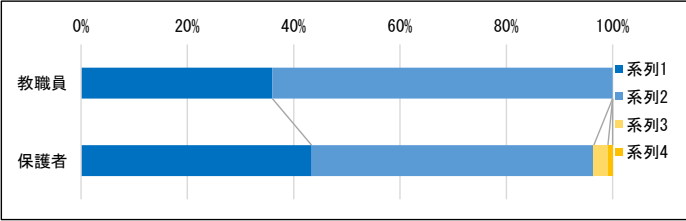
昨年度に比べ、教職員・児童における評価ポイント減少する結果となった。①②の肯定的な回答は、概ね90%と高い評価である一方で、教職員の①の回答は昨年度から20%近く減少している。児童が良好な友人関係を築くことに対して、課題を抱えているようである。一人一人にしっかりと向き合い、悩みを解決していけるように、スクールカウンセラーや心の相談員と協働し、教育相談体制を更に充実させていく必要があると考えられる。児童がより良い友人関係を築いていくためにはどうすればよいかを学校全体で学んでいけるよう、学級開き等の機会をとらえた取り組みを積極的に行っていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
17	教職員	児童は、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	3.40	3.48	3.55	48%	44%	8%	0%
	保護者	お子さんは、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	3.41	3.08	3.15	54%	34%	10%	2%
	児童	外で元気にあそんだり、運動したりしている。	3.49	3.39	3.37	65%	23%	10%	3%



昨年度に比べ、平均評価は大きく上昇している。特に保護者の④においては17%上昇、児童については10%の上昇が見られた。本校では多くの児童が休み時間には校庭で元気に遊んでおり、日常の体育科授業やもみじ交流等の活動も成果として表れていると考える。その一方で教室や図書室で毎日過ごしている児童もあり、運動の好きな子と嫌いな子の2極化が進んでいる傾向にある。運動が好きな子供を増やしていくためにも、今後も日常の体育科授業の充実を図り、業間の取り組みなどを通して児童の運動や遊びの時間を保障することで、児童の体力向上にも努めていきたい。

No.	項目		R07年度 平均評価	R06年度	R05年度	評価別割合			
						①	②	③	④
18	教職員	学校の教職員はICTを積極的に活用し、楽しくわかりやすい授業づくりに努めている。	3.36	3.35		36%	64%	0%	0%
	保護者	学校の教職員はICT（デジタル機器、デジタル教材等）を積極的に活用し、楽しくわかる授業づくりに努めている。	3.39	3.38		43%	53%	3%	1%
	児童	学校でタブレットを使って勉強することが楽しい。	3.64			74%	18%	6%	2%



昨年同様、保護者の回答も肯定的な評価（①②合わせて100%）、教職員、児童共に0.1ポイントほど上昇している。今年度9月から教職員、児童共に新PC端末が導入されたことをきっかけに、これまで以上に校内研修を積み重ね、ICTの有意義な活用を研究してきた。特に児童の評価については、①の項目は昨年より5%上昇しており、これまでの取り組みの成果が結果につながったと考えられる。本校において課題であった保護者への情報提供サービス等においても配布物をデータにて配信することができるようになった。今後は、ICTを活用して業務の効率化を図っていくとともに、子供たちにとって楽しく深い学びができるよう、教職員一同精進していく必要がある。

学校運営協議会委員（学校関係者）の意見とまとめ

- ・今年度後半から、色々な活動が活発化してきていて、子ども達にとってはとても良い刺激になっているのではないかなと思う。中でも東西小学校の交流は、有意義な活動であると感じている。
- ・小小連携は、学期に1回、レクだけでなく学習要素も取り入れた形で交流できれば良い。
- ・No.9の「いじめ対策」について、学校と保護者の齟齬が気になる。相互の連携が大切だと感じる。
- ・No.11の「学校は楽しいか」の質問で、子供よりも保護者の方が③④の値が高いのは、大人の先入観かもしれない。
- ・No.12、13について、最近は学校の宿題が少ないのでは？と感じる。保護者にも、関心を持って持ってもらえるような工夫をしたい。
- ・子供が「やらなくちゃ！」と考える課題が必要かと感じる。
- ・No.13について、自覚を持って勉強に取り組むとしたら、評価はこのような感じかなと思う。子供はそれなりに頑張っているとの認識なのだと感じる。
- ・No.15について、教職員が感じる守られていないルールは何なのか、学校と保護者・子供たちと一緒に考える必要があるのではないかな。守られなかった時はどのような対応をするのかなど、ルールの共有も必要があるのではと思う。
- ・No.16について、「子ども達の交友関係で問題があるのでは？」と、学校でも気に留めておく必要があると感じる。
- ・No.17について、休み時間には運動するよりも、友達とおしゃべりしたり、本を読んだりするほうが好きな子供もいるのだろう。
- ・最後のICT教育について、東小では積極的に活用できていると感じているが、最近、高学年でも持ち帰りがないことが気になっている。連絡ツールとしての活用はもとより、学習ツールとしての有効活用ができればと良い。長期休暇など、学習ツールを使った宿題を提出させるなど、学力向上にもつながるのではないかなと思う。
- ・学校側の認識と保護者側の認識に少し相違があるように感じる結果も見られる。保護者と学校がコミュニケーションを取りながら、より良い関係を築くことが今後さらに必要だと感じる。
- ・「保護者に負担がかかるから」と遠慮されず、ヘルプを発信してほしい。